

春の参拜期を迎へて

宮司 金井國俊

寒さが一段と厳しかったこの冬でしたが、三月八日の春季大祭を了へて、御嶽の山々にもやうやく春の足音が聞こえて参りました。

ご講中の皆様の参拜時候を迎へ、又行楽の季節ともなりますので、山上の賑わひが心待たれ、その準備に心をいたしている毎日でございます。

ここからの神社の行事は、奥宮遷座祭、四月二十九日の奉納剣道大会、五月七日宵宮・八日の日の出祭、と今からその対応にとめて参りたいと存じます。沢山の方々のご参拝を心よりお待ち申し上げます。

今年には戌年に当たります。戌年の方位は西北西、季節は晩秋に当てられ、稲の収穫を終へた静かな至福の一年とい



昭和六年の御嶽駅前 (新井写真店提供)

御嶽は春山といわれ四、五月頃に神社を信仰する地区の集まりである講(こう)の参拜期を迎える。講は江戸中頃より関東一円に広まり、盛衰はあるものの今日まで代々受け継がれている。

日向和田の石灰開発のため明治二十八年に開業した青梅鉄道が、同三十一年に一般旅客運行為始めたことにより、御嶽詣でがより盛んになり、昭和四年御嶽駅まで開通、昭和十年ケールブルカー開業でいよいよ賑わいを見せるようになった。寄稿頂いた戸田市新曾馬場講中(四頁掲載)で、御嶽講が昭和四年に再結講したのもそうした事情によるものと思われる。写真は昭和六年当時の御嶽駅前の写真である。

昭和四年御嶽駅まで開通、昭和十年ケールブルカー開業でいよいよ賑わいを見せるようになった。寄稿頂いた戸田市新曾馬場講中(四頁掲載)で、御嶽講が昭和四年に再結講したのもそうした事情によるものと思われる。写真は昭和六年当時の御嶽駅前の写真である。

御嶽山の行事

Table listing shrine events by month: April (産安社祭, 奉納剣道大会), May (日の出祭, 男具那社祭), June (峰中修行), July (神楽と雅楽の一般公開, 夏越大祓), August (峰中修行), September (神楽と雅楽の一般公開), October (流鏝馬祭, 大口真神社祭), November (新神楽, 秋季大祭), December (末社祭, みたけ山岳マラソン), January (元旦祭, 太占祭), February (大口真神社祭, 節分祭), March (稲荷社祭, 春季大祭), April (奉納俳句奉告祭, 月次祭), May (日供祭).

第三十三回武蔵御嶽神社奉納俳句入選作品

選者 金子千侍

- 特選: 一席 薫風や三百段を嘯みしめる 青梅市 津布久 信雄
二席 千咲きて千のしげき草蓮華 東村山市 松内 佳子
三席 神の山恐れ気もなく恋の猫 中野区 辰巳 行雄
四席 笹山のどこかが光り笹子鳴く 入間市 増岡 徳蔵
五席 邯鄲の声待つ闇の深さかな 国立市 加藤 美代子

- 佳作(出句順): 一山を一神として朴の花 立川市 細田 道子
神と歩む新緑の山日の出祭 八王子市 塚本 恭男
道路鏡丸く御岳の春映す 青梅市 阿部 秋水
登り来て下界の春に小石蹴る 青梅市 藤盛 美恵
夢のあと目覚めうながす時鳥 八千代市 橋井 清嗣
薪能闇に浮きたる面かな 羽村市 小沢 弘子
天辺に避雷針立て杉古ぶ 草加市 小山 宏子
零余子蔓引くより強く引かれけり 多摩市 橋本 ゆき子
初神楽おのずと背筋正しけり 青梅市 中村 康典
初詣音うしろよりブーツの娘 青梅市 原島 康典

- 応募総数 四〇七句
選者吟: 地鶏らに笑いあるらし花の峽
神の山九十九の道の渡りゆく 飯能市 森野 泉子
山つつじしかり根を張り岩起す 青梅市 小野 泰弘
殿に稚児抱かれ行く春季祭 国立市 福原 清子
裸木に神の声きく風の音 練馬区 伊佐 大蔵
神木を眠らせてる霧の湖 吉川市 曾根 新五郎
山暮るる森青蛙鳴く中に 青梅市 吉村 充治
御師の子等落葉まみれのかくれんぼ 青梅市 宇島 キミ子
山脈の風が吐き出す杉花粉 日の出町 島崎 百合子
神職の慰め畑の唐辛子 青梅市 吉田 由治

奉納俳句選評

「特選」
一席 薫風や三百段を嘯みしめる 津布久信雄
「嘯みしめる」という絶妙な語句が、三百もある石段を登る厳しさを表現し、青葉に湧いた爽やかな風が、汗と疲れを癒やしてくれるのでした。石段と薫風が織りなす素朴なロマン、併し迫真の詠みに感動です。

二席 千咲きて千のしげき草蓮華 松内佳子
赤紫色に白斑の可憐な花、八つ十個を花茎の先につけた草蓮華。純朴な美しさに、どこことなく漂う静けさ、作者の鋭い感性が捉えた真理とは、静けさという無は、千本咲いても無の静けさなのであろう。

三席 神の山恐れ気もなく恋の猫 辰巳行雄
神の祀られている神聖なお山にも、春が訪れると猫の恋が始まります。雌を求めて甲高く、異様な嘆き方をする雄の行動は、正に神をも憚らぬ所行であります。俳句の醍醐味といえる諧謔が痛快に詠まれました。

第三十四回 奉納俳句募集要項

- 一、作品は未発表に限る
一、受け付けは指定用紙にて投句箱へとする
(郵送等直接の受付は致しません)
一、締切りは 平成十九年一月十五日
一、発表は 平成十九年三月中旬